

第1部

序論

計画策定の基礎的な背景

はじめに

1. 計画策定の趣旨

総合計画とは、将来、我が町をどのような「まち」にしていくのか、そのためにどのようなことをしていくのかを、総合的・体系的にまとめたものです。福祉や都市整備、環境といったすべての計画の基本となるもので、まちづくりを進めていくための「道しるべ」といえます。

入善町では、令和3年度から12年度の10年間を計画期間とする「第7次入善町総合計画」を令和3年3月に策定し、「扇状地に夢と笑顔があふれるまち入善～子どもたちの未来のために～」を将来像として掲げ、将来像の実現に向けて取組みを推進してきました。

その間、本格的な人口減少と少子高齢化の進行、急速な技術革新による高度情報化社会の到来、全国的に多発する自然災害など、入善町を取り巻く状況はめまぐるしく変わっています。

この度、令和7年度をもって計画期間の前半5年間にあたる「前期基本計画」が終了することから、前期基本計画に基づくまちづくりの成果、町民の意識や時代のニーズの変化等を踏まえ、令和8年度から令和12年度の後半5年間を計画期間とする「後期基本計画」を策定します。目指すまちづくりの方向性や重点的に取り組む内容をわかりやすく示し、町民と行政が一体となって、目指すべき未来の入善町の姿を実現していきます。

2. 計画の位置づけ

総合計画は、10年後の目指すべきまちの未来の姿を示し、それを実現していくために、町の取組みを総合的かつ計画的に推進するための計画です。各分野における目標や事業の指針を示す、入善町の最上位の計画です。

各分野で策定する個別計画については、総合計画で示す目指すべき町の未来の姿の実現に向けて設定するまちづくりの方針等を踏まえ、整合性を図りながら策定・推進します。

3. 計画の構成と期間

第7次入善町総合計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成されています。

また、総合計画は地方創生に関する施策や事業を抽出し策定した、地方版総合戦略を内包しています。

基本構想

町が目指すべき将来像やその実現のためのまちづくりの基本方針などを示すものです。計画期間は令和3年度から令和12年度までの10年間です。

基本計画

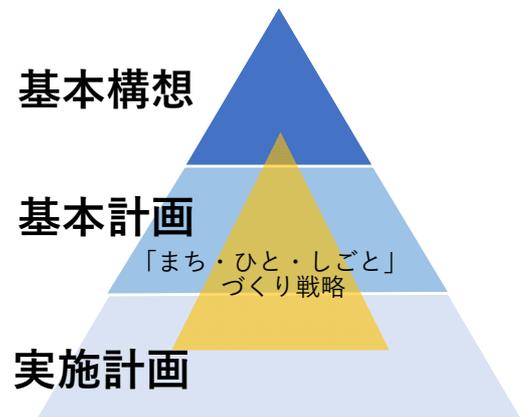
基本構想に示すまちづくりの基本方針などに基づいて、基本的な施策や取組みなどを示すものです。計画期間は5年とし、基本構想の10年間の中で、前期計画と後期計画に分けて計画を進めます。

- ・前期計画：令和3年度から令和7年度まで
- ・後期計画：令和8年度から令和12年度まで

実施計画

基本計画で示された基本的な施策などを実現するための具体的な事業を定めるものです。計画期間は3年とし、毎年度、ローリング方式*で事業の見直しを行います。

入善町総合計画

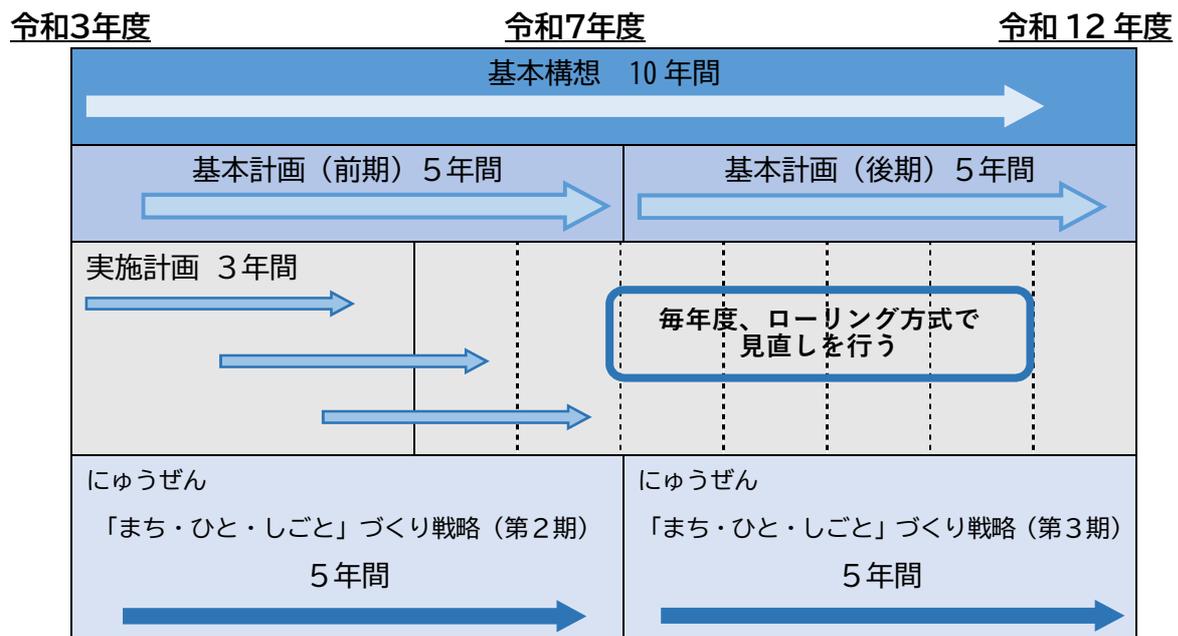


※ローリング方式……現実と長期計画のズレを埋めるために、施策・事業の見直しや部分的な修正を、毎年転がすように定期的に行っていく手法。

にゅうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略（第3期）

人口減少問題を克服し、地方創生の実現に向けて集中的に取り組むため、令和8年度から令和12年度までを計画期間とする地方版総合戦略「にゅうぜん『まち・ひと・しごと』づくり戦略」を策定しています。

本計画においても、総合戦略に掲げる基本目標や方向性等を包括的に位置づけ、施策横断的に推進します。



I 入善町の現況と今後

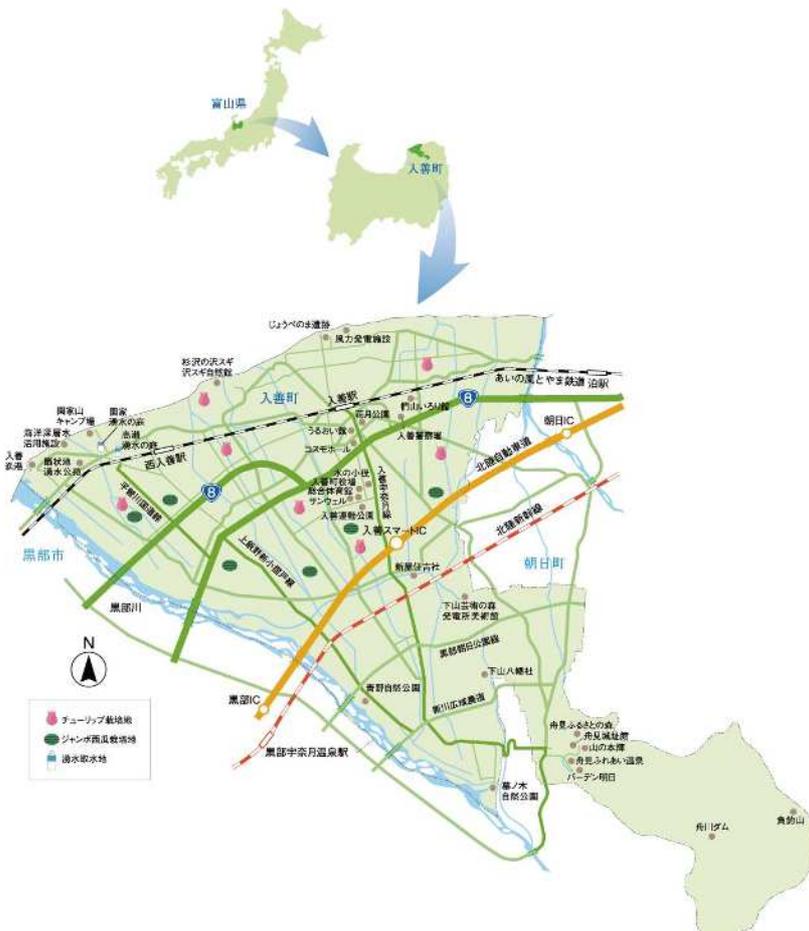
1. 入善町の概況

本町は、一級河川黒部川が形成した我が国の代表的な扇状地「黒部川扇状地」の中央に位置し、東に朝日町、南西に黒部市、北は日本海に面しています。

本町の豊かで魅力ある資源の第一に挙げられるのは「水」です。黒部川の水は扇状地の中を伏流水として流れ、湧水となって扇端部で自噴しています。また、扇状地上を流れる豊かで清らかな水は、農業用水として利用されるなど、本町の産業を支え、季節ごとに様々な景色を映し、本町の象徴となっています。

さらに、水深 400m 以深から取水した「海洋深層水」も、その特性を活かした事業展開により、産業・観光振興をはじめとする町の活性化に寄与しています。

地形は、東西 12.2 km、南北 16.5 km で周囲 42.5 km、面積は 71.25 km² です。日本海に面した北側の海岸線は 11.5 km、それを底辺として南に尖った三角形をしています。



2. 入善町のおいたち

本町は、広大な平野部をもつ稲作地帯ですが、古くはこのあたり一帯は黒部四十八ヶ瀬と称され、親不知とともに北国往還最大の難所として知られていました。この扇状地がいつ頃から開拓されたかは明らかにはなっていませんが、「じょうべのみ」遺跡には、平安時代の荘所とみられる建築群がみつかっています。

12世紀前半には東大寺の荘園、入善荘が成立し、南北朝時代には飯野に小佐味荘も存在していました。

その後、権名、上杉、佐々、豊臣、前田氏によって支配されてきましたが、1658年の領地換えで全域が加賀（金沢）藩領となり幕末に及びました。

明治4年の廃藩置県により本町域は新川県に所属、明治9年には石川県に属していましたが、明治16年に本町出身の県会議員、故米澤紋三郎氏（分県請願委員長）らの猛烈な分県運動により石川県より分県し、富山県となりました。

明治22年3月には町村制実施に伴い、入善町、上原村、青木村、飯野村、小摺戸村、新屋村、櫛山村、横山村の1町7か村となりました。昭和28年10月にはこの1町7か村が新設合併し、新しく入善町が発足しました。昭和34年1月には舟見町（朝日町の野中分離地区が舟見町と合併）が編入合併し、現在に至っています。

3. アンケート調査の概要

入善町総合計画後期基本計画の策定にあたり、地域の現状や課題を的確に把握するため、以下のアンケート調査を実施した。

(1) 入善町総合計画後期基本計画策定のための住民意識調査

行政サービスや今後のまちづくりについて、町民の意見や要望を検証することにより、人口減少時代の課題を整理するとともに、総合計画前期基本計画の達成状況の評価と見直しに向けた基礎資料とすることを目的とする。

| | |
|------|---|
| 調査方法 | 配布・回答：郵送による無記名調査。 |
| 調査対象 | 入善町に在住の20歳以上を対象に無作為に抽出した2,000人 (令和6年10月1日時点) |
| 調査期間 | 令和6年11月1日(金)～11月18日(月) |
| 回収数 | 933人(有効回答率46.7%) |

(2) 若者の将来に関するアンケート調査

総合計画後期基本計画の策定に向けた基礎資料として活用することを目的として、若者を対象に町の魅力や問題点、今後の居住意向や結婚の意向、将来像等についてのアンケート調査を実施した。

| | |
|------|---|
| 調査方法 | 配布：郵送による無記名調査 回答：郵送又はインターネット |
| 調査対象 | 入善町に在住の16歳から30歳までを対象に、無作為に抽出した1,000人 (令和6年10月1日時点) |
| 調査期間 | 令和6年11月1日(金)～11月18日(月) |
| 回収数 | 331人(有効回答率33.1%) ⇒内訳：郵送回答が52.3%、Web回答が47.7%。 |

4. 統計データや住民の声などから見る入善町の現況

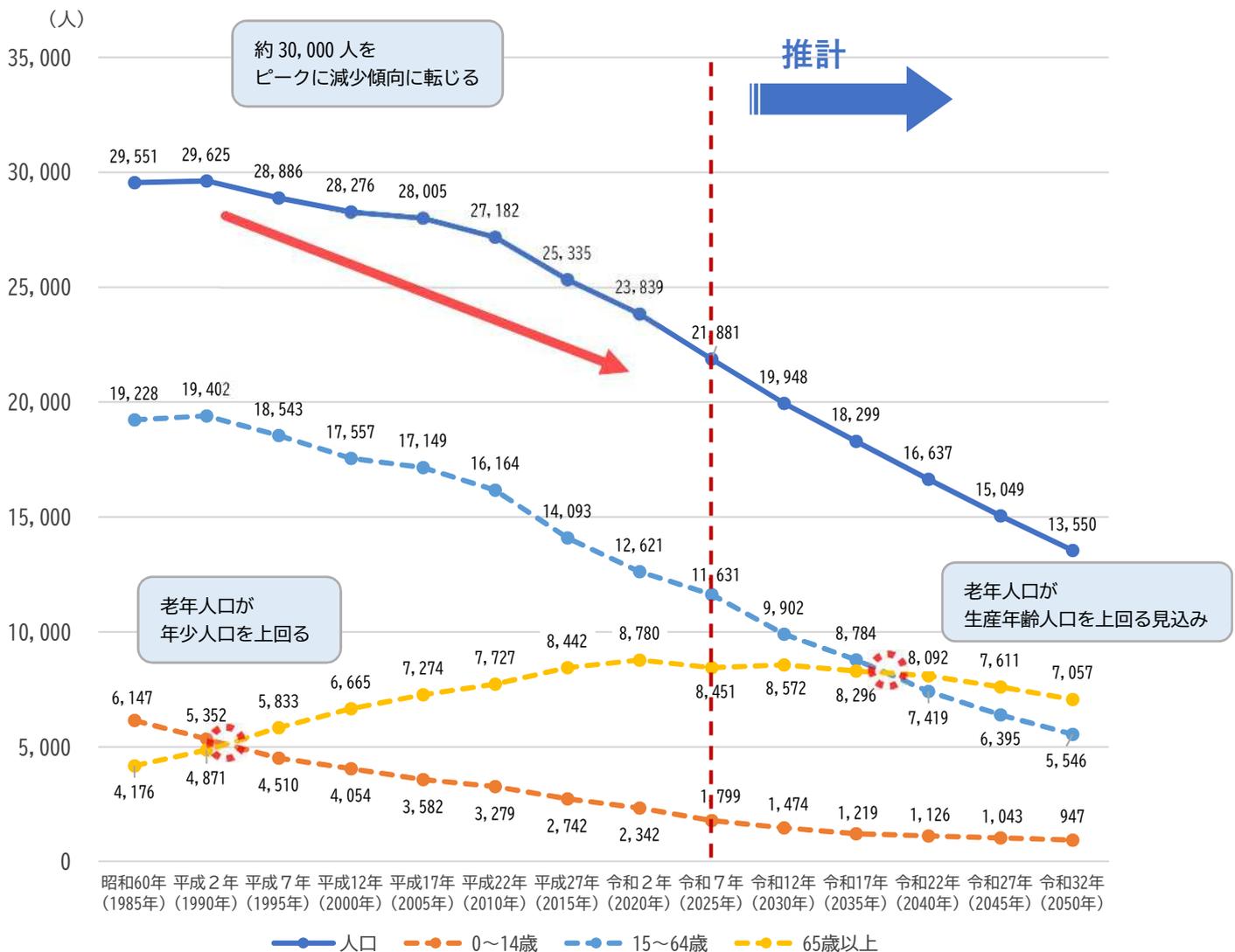
(1) 人口の推移・推計や世帯状況について

■人口減少と少子高齢化

⇒人口減少と少子高齢化がさらに加速すると推計

総人口の推移を見ると、ピークであった平成2年の29,625人から年々人口が減少しており、令和7年6月末には22,000人を割り込むなど、人口減少の傾向は年々加速しています。さらに、令和22年には、65歳以上（老年人口）が15～64歳（生産年齢人口）の人数を上回り、今後ますます少子高齢化が加速すると推計されています。

【図表】人口の推移と推計



資料：～令和2年 国勢調査

令和7年 住民基本台帳人口（10月1日現在）

令和7年～ 国立社会保障・人口問題研究所

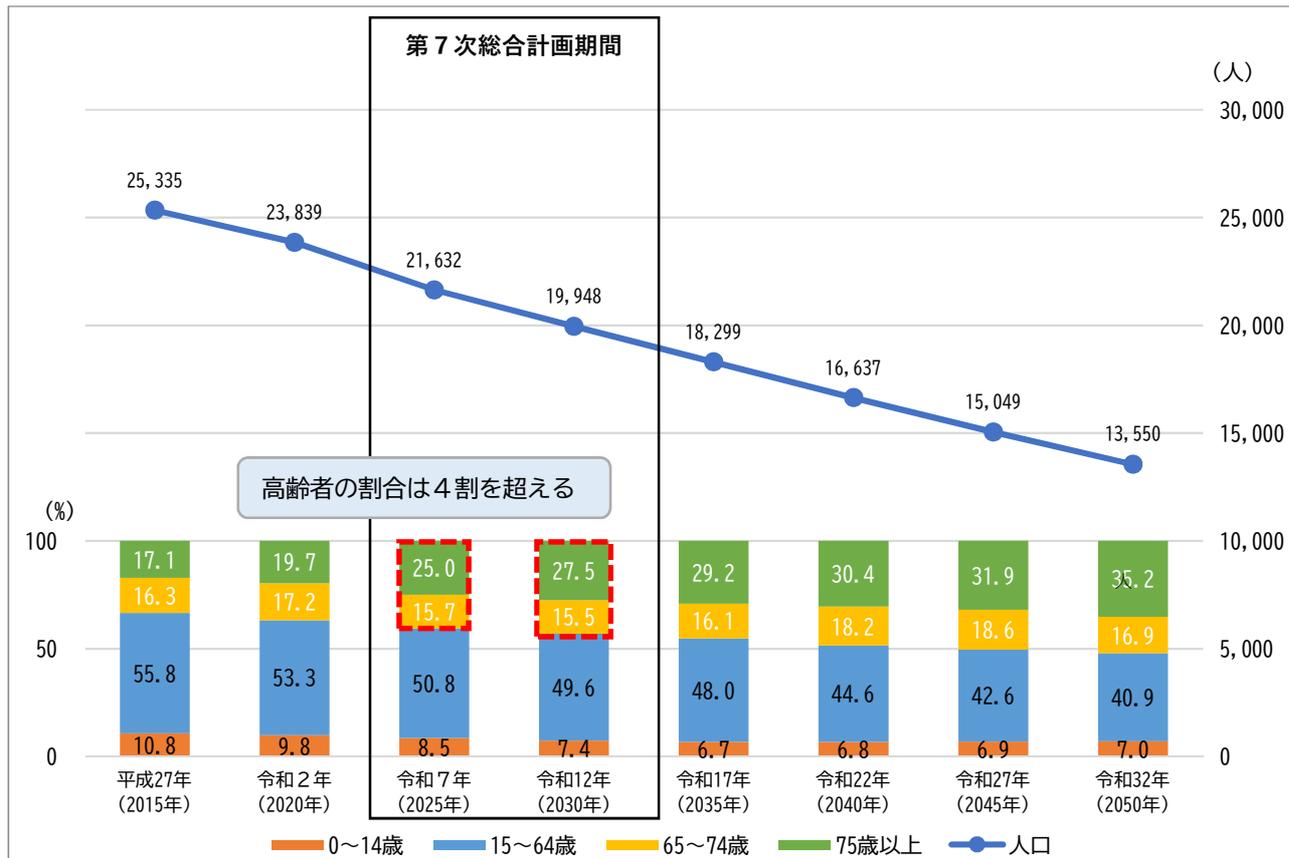
「日本の将来推計人口（令和5年推計）」

■高齢者の割合について

⇒ **高齢者の割合が4割を超え、このうち 75 歳以上の後期高齢者の割合が 6割を超える**

令和 7 年には、65 歳以上（老年人口）の割合が 4 割を超え、このうち 75 歳以上の後期高齢者の割合は 6 割を超えます。さらに、令和 22 年には、65 歳以上（老年人口）が 15～64 歳（生産年齢人口）の人数を上回るとともに、町民の約 3 人に 1 人が後期高齢者になると推計されています。

【図表】 将来人口と人口構成



資料：～令和 2 年 国勢調査

令和 7 年～ 国立社会保障・人口問題研究所

「日本の将来推計人口（令和 5 年推計）」

■外国人の人口について

⇒人口減少とは反対に外国人は増加

本町の総人口は減少傾向にありますが、外国人については平成 27 年から増加傾向にあり、令和元年には、約 480 人に達しました。令和 2 年以降は 450 人前後で維持傾向が続いていましたが、令和 6 年には 493 人、令和 7 年には 551 人となり、再び増加傾向となっています。

【図表】外国人の人口の推移



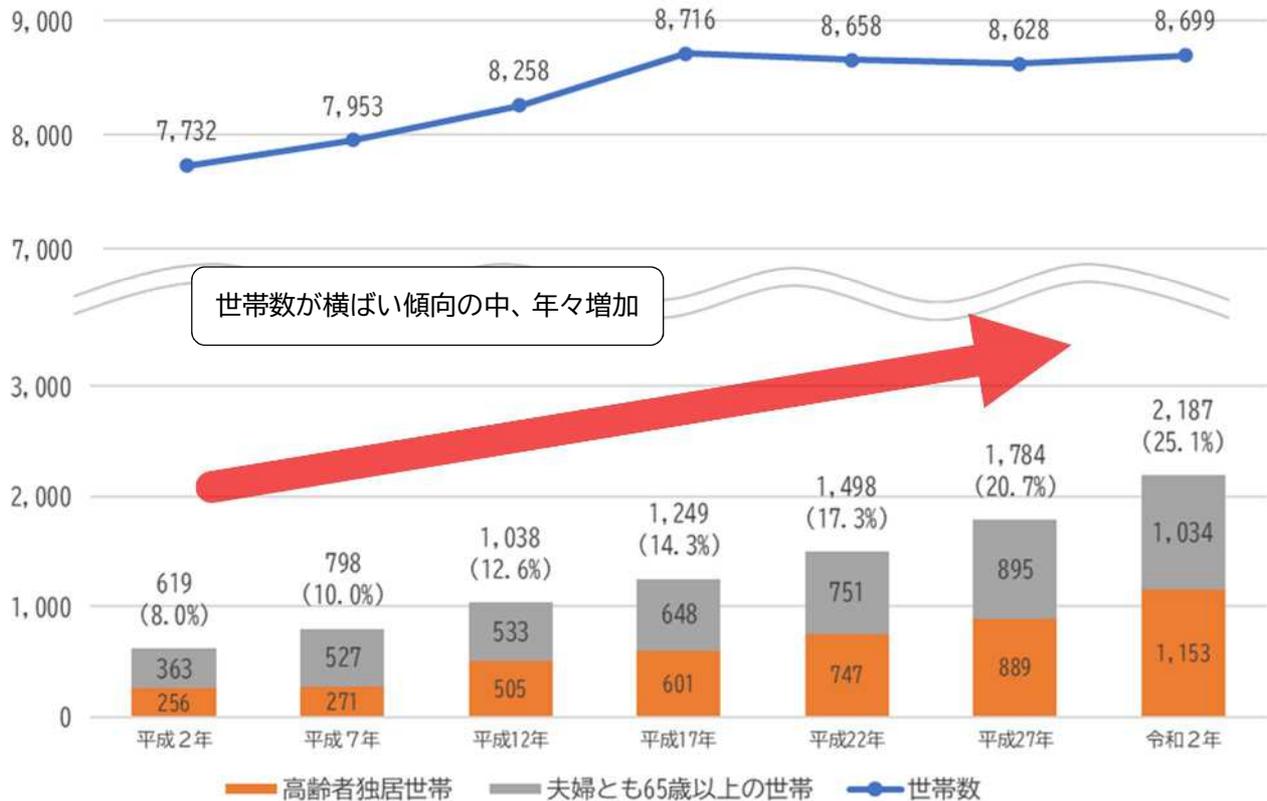
資料：住民基本台帳（10月1日現在）

■世帯状況について

⇒高齢者のみの世帯の増加

全世帯数は平成17年以降、横ばい傾向にあるものの、高齢者独居世帯と高齢者夫婦世帯の高齢者のみの世帯については、年々増加しています。

【図表】 高齢者独居世帯と高齢者夫婦世帯の推移



資料：国勢調査

※特別養護老人施設等の入所者は棟ごとにまとめて一つの世帯とする

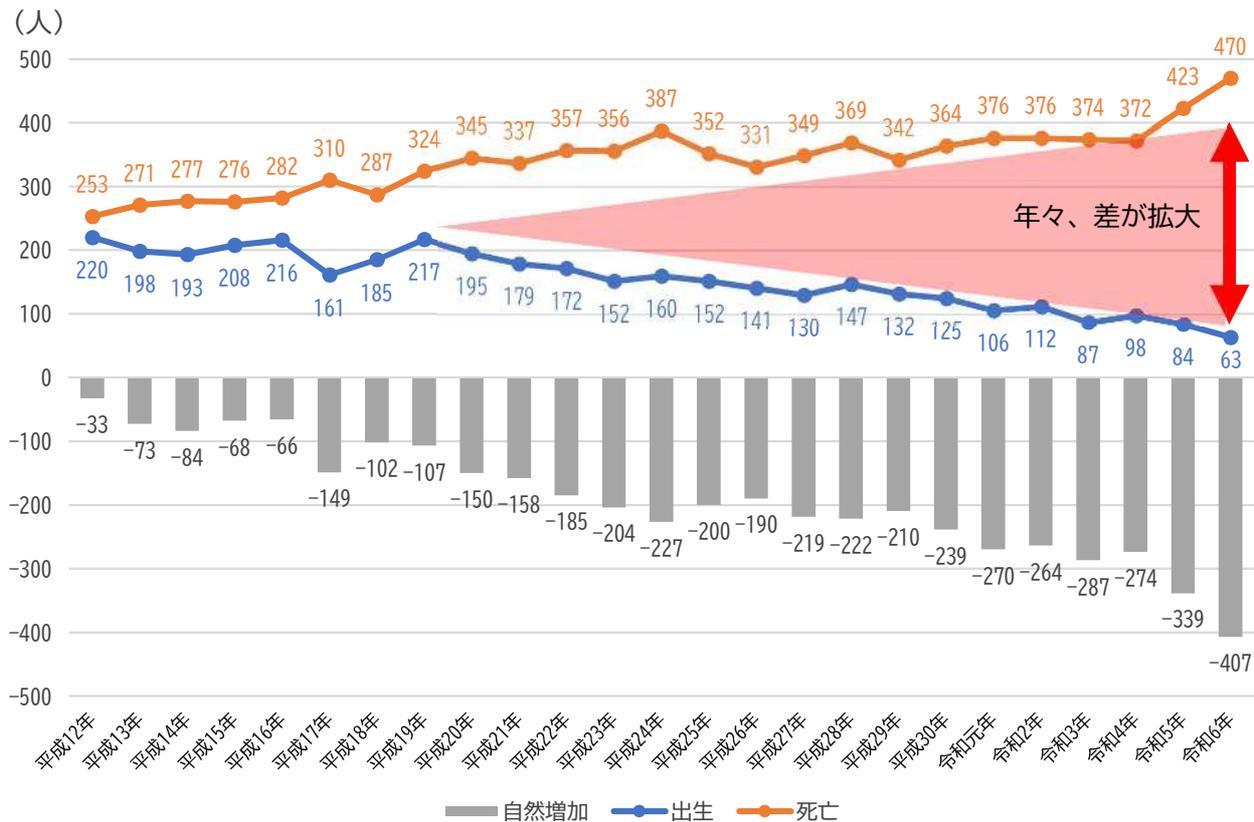
(2) 自然動態について

■出生と死亡について

⇒出生数の減少と死亡数の増加により、人口減少は年々拡大

平成12年は、出生数と死亡数の差による人口の減少は33人でしたが、令和6年には407人と、年々差は拡大し、人口減少が進んでいます。

【図表】出生数と死亡数の推移



資料：人口移動調査

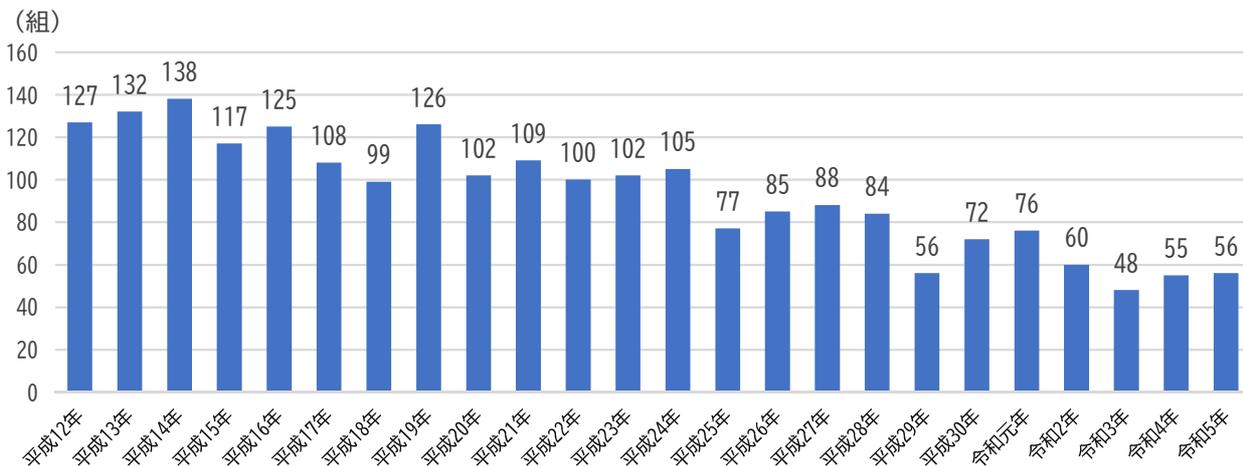
■結婚について

⇒婚姻数は減少傾向

平成12年以降、婚姻数は若干の増減はあるものの、減少傾向にあります。

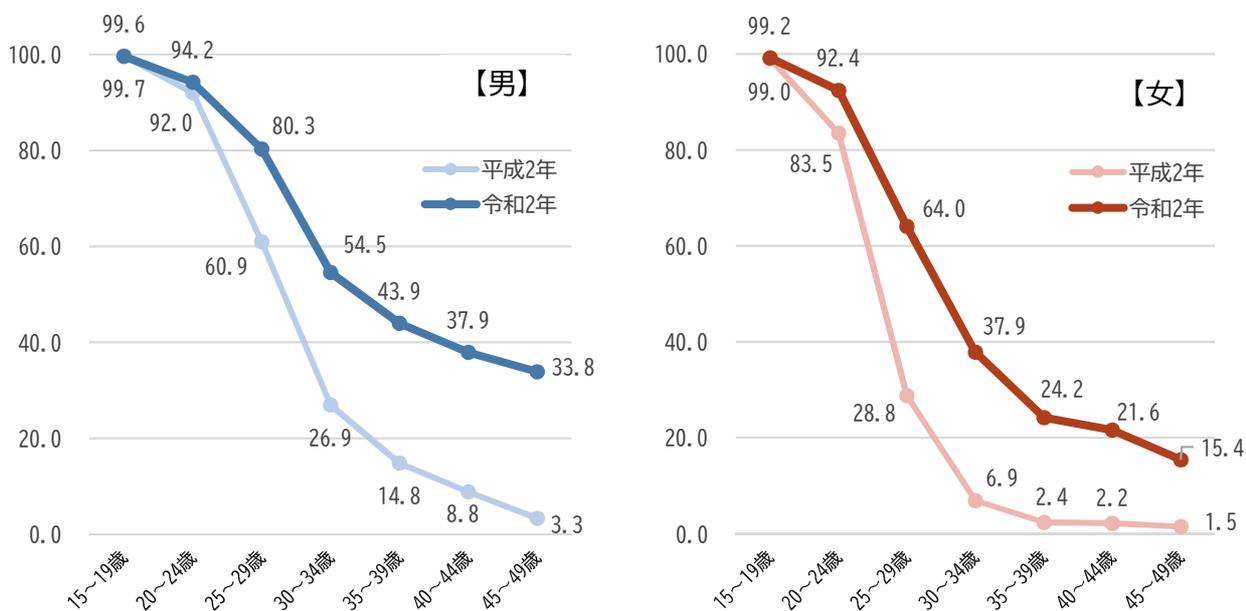
また、年齢別の未婚率を人口がピークであった平成2年と比較すると、男女ともに各年齢において未婚者の割合が大幅に上昇しています。

【図表】婚姻数の推移



資料：統計にゆうぜん

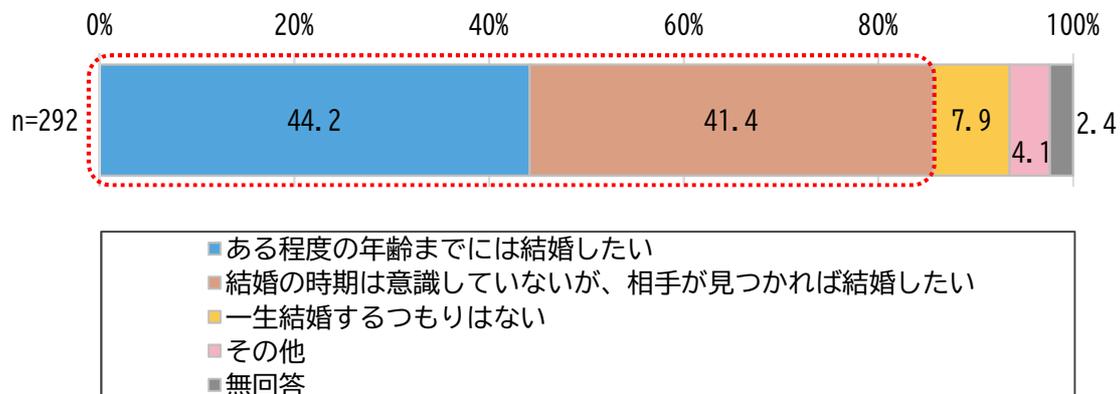
【図表】未婚率（5歳階級別配偶関係）



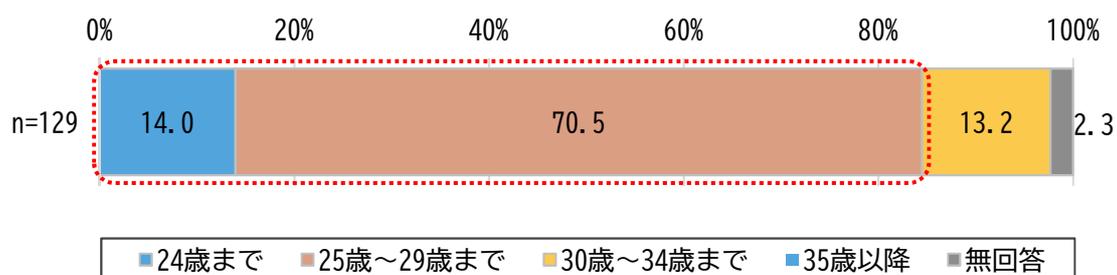
資料：国勢調査（令和2年）

⇒若者の9割が結婚したい意向を持っている

若者意識調査では約9割が結婚を希望しています。結婚希望年齢は、8割以上の方が20歳代のうちに結婚したいと考えています。



【図表】若者意識調査 結婚の意向

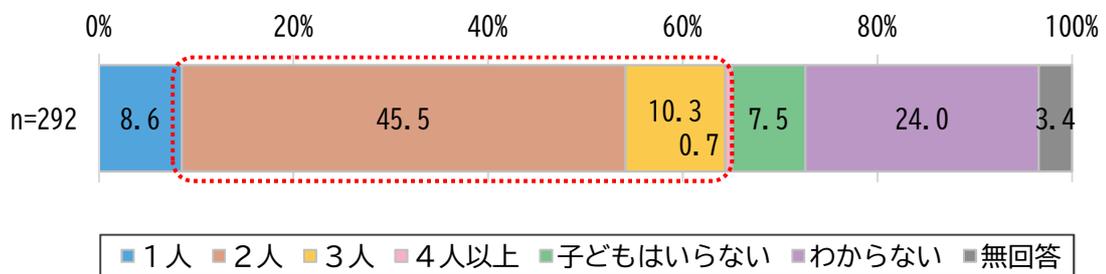


【図表】若者意識調査 結婚希望年齢

■子どもの数について

⇒若者の約6割が2人以上の子どもを持ちたいという意向がある

若者意識調査では約6割が子どもを持ちたいと考えており、そのうち約9割が理想の子どもの人数は2人以上としています。

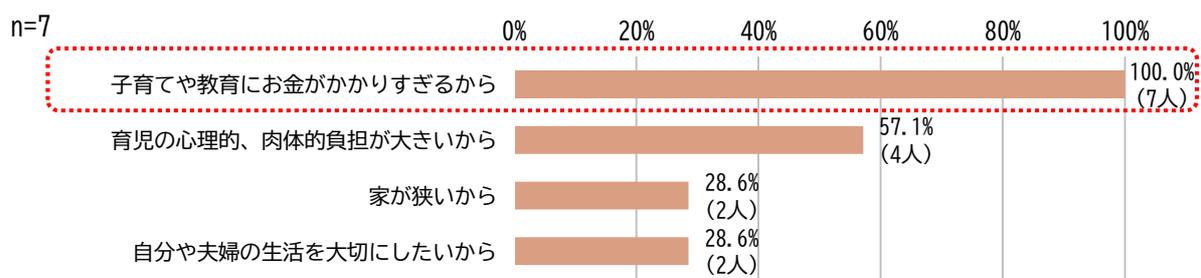


【図表】若者意識調査 理想の子どもの人数（独身者）

■理想的な子どもの人数より現実に持つ人数が少ない理由

⇒子を持つ親は「子育てや教育にお金がかかりすぎる」と感じている

出生数の推移から、理想とする子どもの人数と現実には乖離があると推測されるが、その理由については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が100%、次いで「育児の心理的、肉体的負担が大きいから」が57.1%、「家が狭いから」と「自分や夫婦の時間を大切にしたいから」が28.6%となっています。



【図表】若者意識調査 理想的な人数より現実に持つ子どもの人数が少ない理由（上位項目）

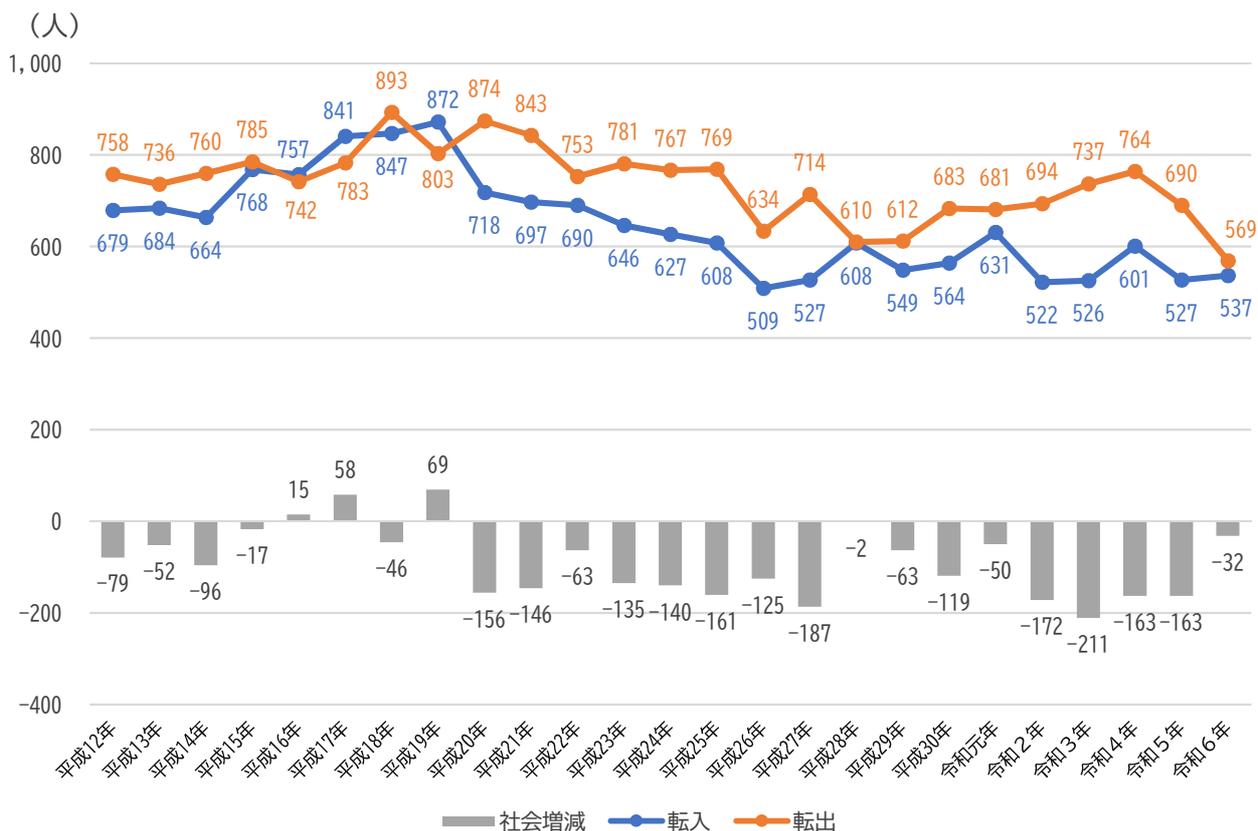
(3) 社会動態について

■転入と転出について

⇒転入数より転出数が多く、人口減少の大きな要因に

平成20年以降、転入数が減少傾向にあり、転出数が転入数を上回る状況が続いています。

【図表】 転入数と転出数の推移

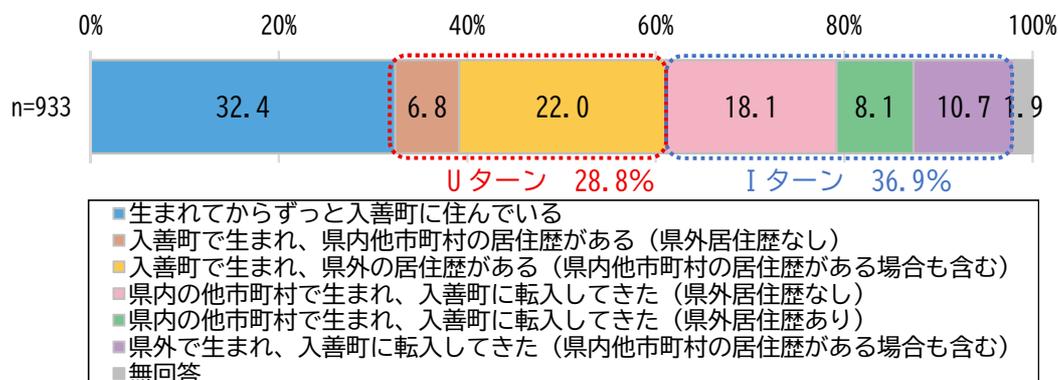


資料：人口移動調査

■居住歴

⇒町に定住しているが約3割、Uターンが約3割、Iターンが約4割

住民意識調査では、“生まれも育ちも入善町”が約3割、“入善町生まれで町外に居住歴があるが町に戻った“Uターンが約3割、”町外で生まれ入善町へ転入した“Iターンが約4割となっています。

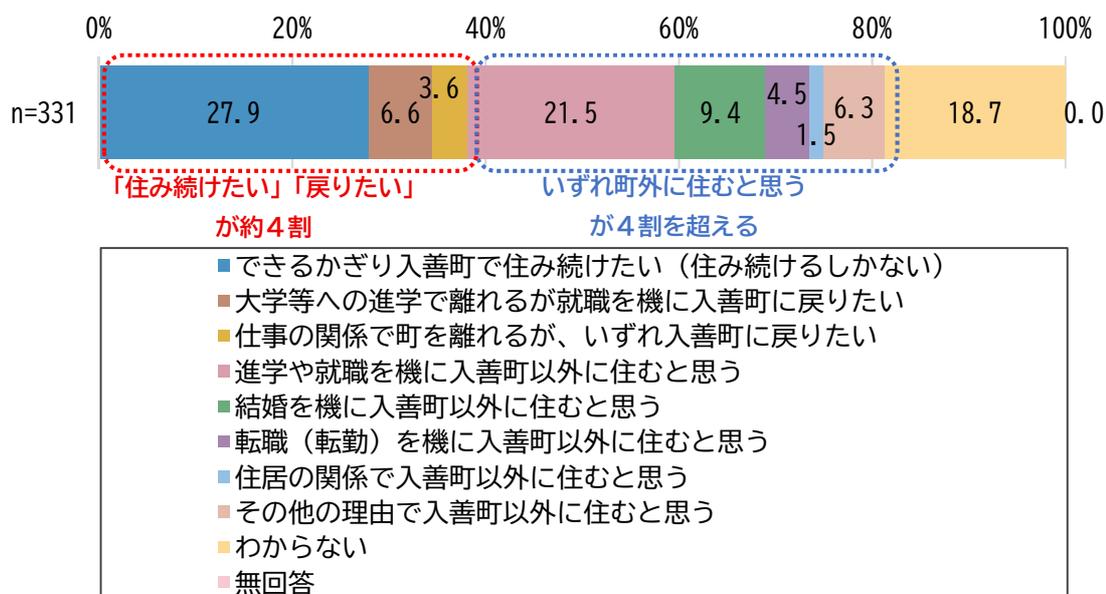


【図表】住民意識調査 入善町での居住歴

■居留意向

⇒若者の居留意向は「住み続けたい」「戻りたい」が約4割

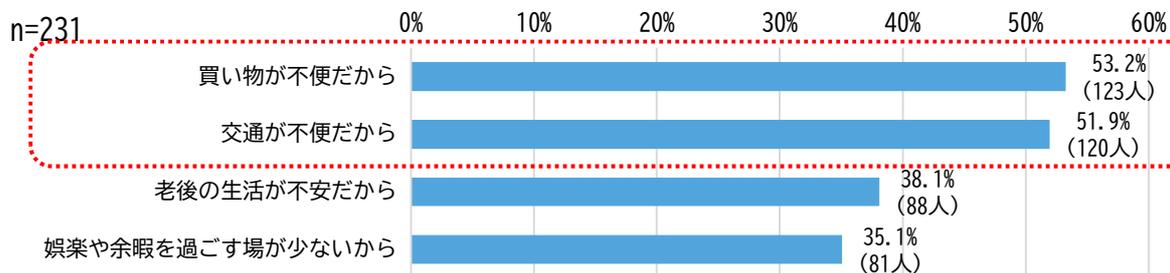
若者意識調査では、入善町への居留意向は、「できるかぎり入善町で住み続けたい（住み続けるしかない）」と「入善町に戻りたい」の合計が約4割、「入善町以外に住むと思う」が合計で約4割となっています。



【図表】若者意識調査 入善町居留意向

⇒入善町から移りたいと思う理由は「交通・買い物が不便」が上位

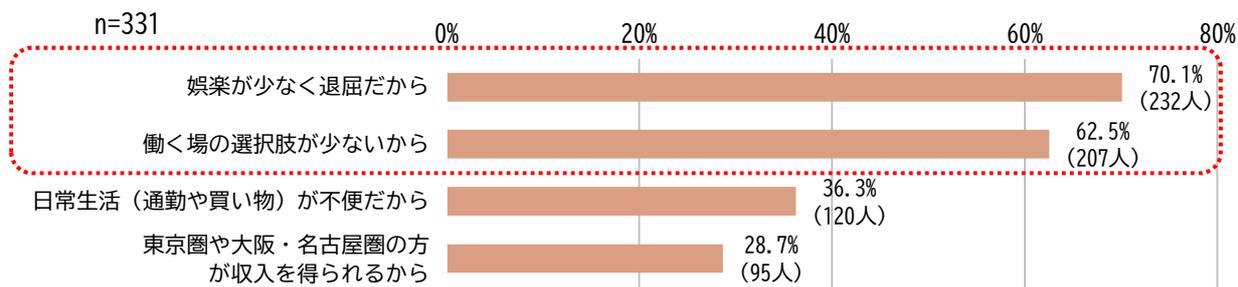
住民意識調査で「今の場所から移りたい」と回答した理由としては、「買い物が不便だから」「交通が不便だから」が上位に挙げられています。



【図表】住民意識調査 入善町から移りたいと思う理由（上位項目）

⇒若者が入善町から出ていく理由は「娯楽が少なく退屈」「働く場の選択肢が少ない」が上位

若者が入善町から出ていく理由としては、「娯楽が少なく退屈だから」「働く場の選択肢が少ないから」が上位に挙がっています。



【図表】若者意識調査 若者が入善町から出ていく理由（上位項目）

(4) 就業の状況について

■産業人口

⇒製造業が最も多く、3割を超える

東京都と比較すると、第1、2次産業に従事する者の割合が高い

本町の各産業人口を見ると製造業が一番多く、3割を超えています。特に男性は、建設業などを加えた第2次産業に従事する者が5割を超えています。女性は医療、福祉に従事する者が最も多くなっています。

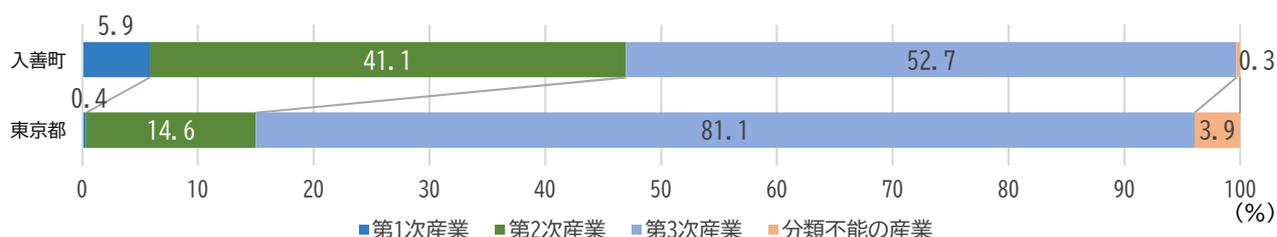
また、若者の流入が多い東京都と比較すると、入善町は第1、2次産業の割合が高く、第3次産業の割合が低くなっています。

【図表】入善町 各産業人口詳細

| 区分 | 総数 | 男 | 女 | 構成比(%) | | |
|-------------------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|
| | | | | 総数 | 男 | 女 |
| 合計 | 12,109 | 6,556 | 5,553 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 【第1次産業】 | 713 | 515 | 198 | 5.9 | 7.9 | 3.6 |
| 農業、林業 | 673 | 480 | 193 | 5.6 | 7.4 | 3.5 |
| 漁業 | 40 | 35 | 5 | 0.3 | 0.5 | 0.1 |
| 【第2次産業】 | 4,978 | 3,417 | 1,561 | 41.1 | 52.0 | 28.0 |
| 鉱業、採石業、砂利採取業 | 6 | 4 | 2 | 0.1 | 0.0 | 0.1 |
| 建設業 | 1,093 | 885 | 208 | 9.0 | 13.5 | 3.7 |
| 製造業 | 3,879 | 2,528 | 1,351 | 32.0 | 38.5 | 24.2 |
| 【第3次産業】 | 6,379 | 2,600 | 3,779 | 52.7 | 39.7 | 68.1 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 44 | 35 | 9 | 0.4 | 0.5 | 0.2 |
| 情報通信業 | 80 | 51 | 29 | 0.7 | 0.8 | 0.5 |
| 運輸業、郵便業 | 499 | 413 | 86 | 4.0 | 6.3 | 1.5 |
| 卸売業、小売業 | 1,243 | 525 | 718 | 10.3 | 8.0 | 12.9 |
| 金融業、保険業 | 165 | 56 | 109 | 1.4 | 0.9 | 2.0 |
| 不動産業、物品賃貸業 | 69 | 40 | 29 | 0.6 | 0.6 | 0.5 |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | 164 | 113 | 51 | 1.4 | 1.7 | 0.9 |
| 宿泊業、飲食サービス業 | 444 | 137 | 307 | 3.7 | 2.1 | 5.5 |
| 生活関連サービス業、娯楽業 | 376 | 110 | 266 | 3.0 | 1.7 | 4.8 |
| 教育、学習支援業 | 387 | 141 | 246 | 3.2 | 2.2 | 4.4 |
| 医療、福祉 | 1,702 | 272 | 1,430 | 14.1 | 4.2 | 25.8 |
| 複合サービス事業 | 236 | 118 | 118 | 1.9 | 1.7 | 2.1 |
| サービス業（他に分類されないもの） | 657 | 374 | 283 | 5.4 | 5.7 | 5.2 |
| 公務（他に分類されるものを除く） | 313 | 215 | 98 | 2.6 | 3.3 | 1.8 |
| 【分類不能の産業】 | 39 | 24 | 15 | 0.3 | 0.4 | 0.3 |

資料：国勢調査（令和2年）

【図表】各産業人口 割合の比較



資料：国勢調査（令和2年）

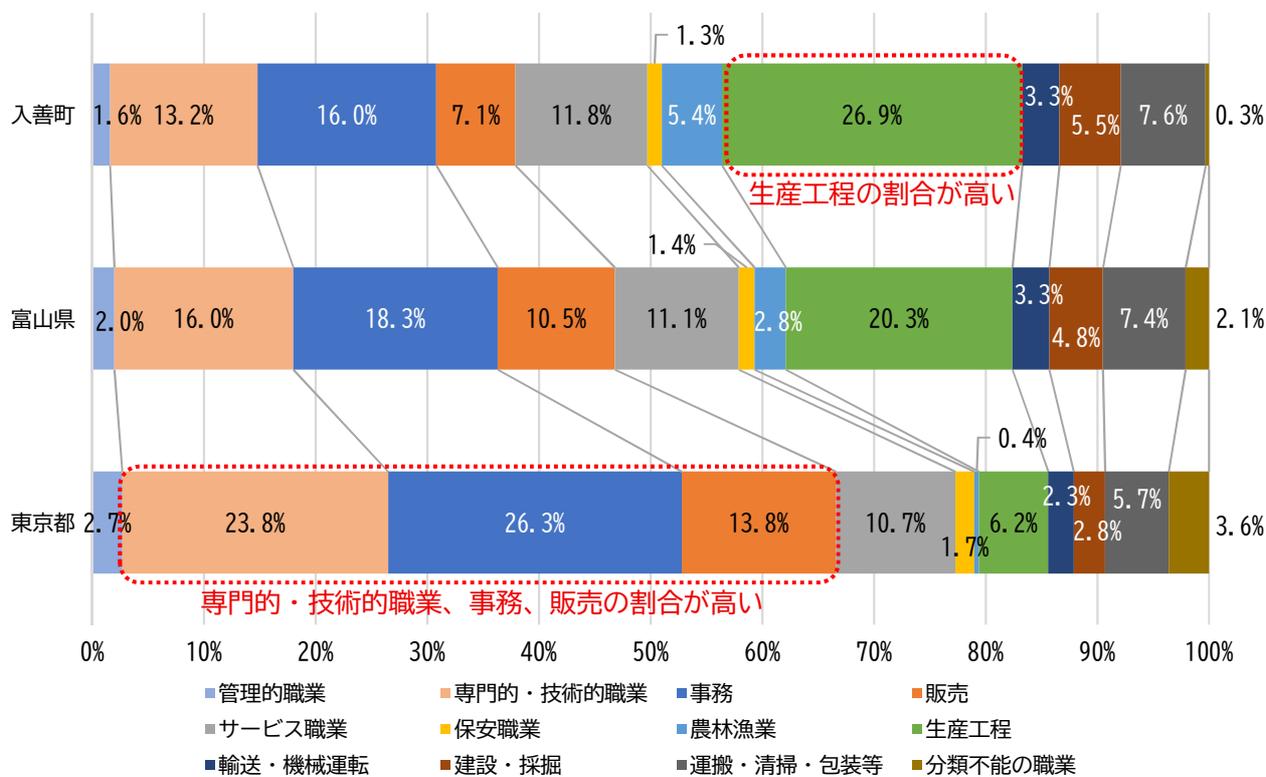
■職種別人口

⇒富山県や東京都と比較すると、「農林漁業」「生産工程」に従事する者の割合が高く、「事務」「販売」の割合が低い

本町の職種別人口の割合を見ると、「生産工程」の割合が最も高くなっています。また、富山県や東京都と比較すると、「農林漁業」「生産工程」従事者の割合が高く、「専門的・技術的職業」「事務」「販売」の割合が低くなっています。

若者が入善町から出ていく理由として上位に挙げられていた「働く場の選択肢が少ない」と合わせて分析すると、割合の低い「事務」「販売」等の職種に若者のニーズがあるものと考えられます。

【図表】 職種別人口 割合の比較

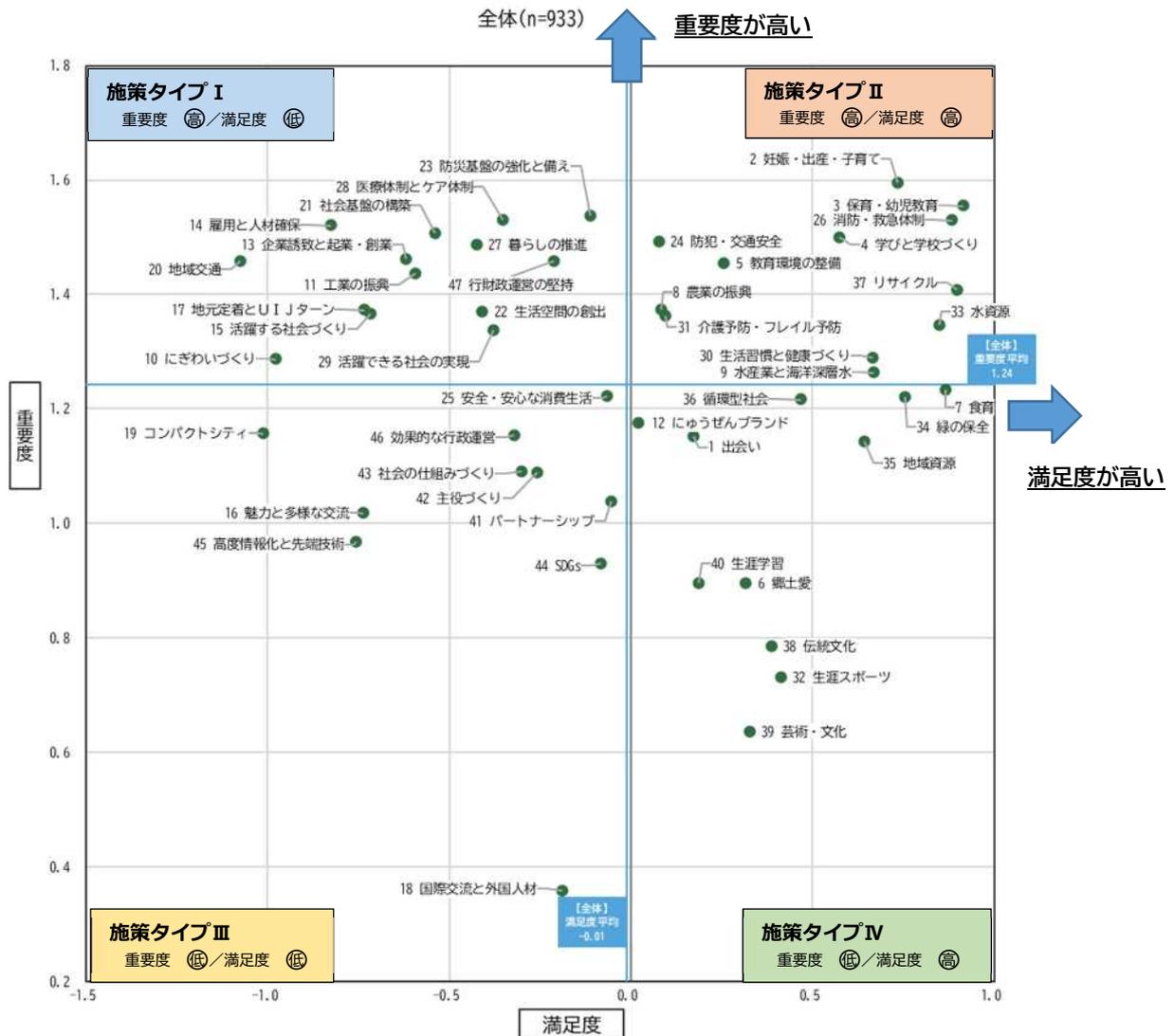


資料：国勢調査（令和2年）

II 第7次総合計画の評価から見る施策の整理

第7次総合計画前期基本計画（令和3年度～令和7年度）の評価を行うため、住民意識調査において当該総合計画の施策に関する「満足度」及び「重要度」を把握しました（施策の40項目と計画を推進するための横断的な視点7項目を合わせた全47項目）。

1. 満足度と重要度の相関図



<施策タイプ I>

今後の重要度が高いが、現在の満足度が低いため、
「力を入れて取り組むべき項目」
重要度 (高) / 満足度 (低)

<施策タイプ II>

今後の重要度が高いが、現在の満足度も高いため、
「現状維持を図るべき項目」
重要度 (高) / 満足度 (高)

<施策タイプ III>

現在の満足度が低いが、今後の重要度も低いため、
「状況に応じて取り組むべき項目」
重要度 (低) / 満足度 (低)

<施策タイプ IV>

現在の満足度が高く、今後の重要度は低いため、
「力を入れる必要性が低い項目」
重要度 (低) / 満足度 (高)

2. 「満足度」の上位10項目及び下位10項目

上位10項目

| 順位 | 項目 | 評点 |
|----|------------|------|
| 1 | 保育・幼児教育 | 0.91 |
| 2 | リサイクル | 0.90 |
| 3 | 消防・救急体制 | 0.88 |
| 4 | 食育 | 0.87 |
| 5 | 水資源 | 0.85 |
| 6 | 緑の保全 | 0.75 |
| 7 | 妊娠・出産・子育て | 0.74 |
| 8 | 水産業と海洋深層水 | 0.67 |
| 9 | 生活習慣と健康づくり | 0.67 |
| 10 | 地域資源 | 0.64 |

下位10項目

| 順位 | 項目 | 評点 |
|----|---------------|-------|
| 47 | 地域交通 | -1.07 |
| 46 | コンパクトシティ | -1.01 |
| 45 | にぎわいづくり | -0.98 |
| 44 | 雇用と人材確保 | -0.83 |
| 43 | 高度情報化と先端技術 | -0.76 |
| 42 | 魅力と多様な交流 | -0.74 |
| 41 | 地元定着とU I Jターン | -0.73 |
| 40 | 活躍する社会づくり | -0.72 |
| 39 | 企業誘致と起業・創業 | -0.62 |
| 38 | 工業の振興 | -0.59 |

3. 「重要度」の上位10項目及び下位10項目

上位10項目

| 順位 | 項目 | 評点 |
|----|--------------|------|
| 1 | 妊娠・出産・子育て | 1.60 |
| 2 | 保育・幼児教育 | 1.56 |
| 3 | 防災基盤の強化と備え | 1.54 |
| 4 | 医療体制とケア体制 | 1.53 |
| 5 | 消防・救急体制 | 1.53 |
| 6 | 雇用と人材確保 | 1.52 |
| 7 | 社会基盤の構築 | 1.51 |
| 8 | 学びと学校づくり | 1.50 |
| 9 | 防犯・交通安全 | 1.49 |
| 10 | 福祉で支える暮らしの推進 | 1.49 |

下位10項目

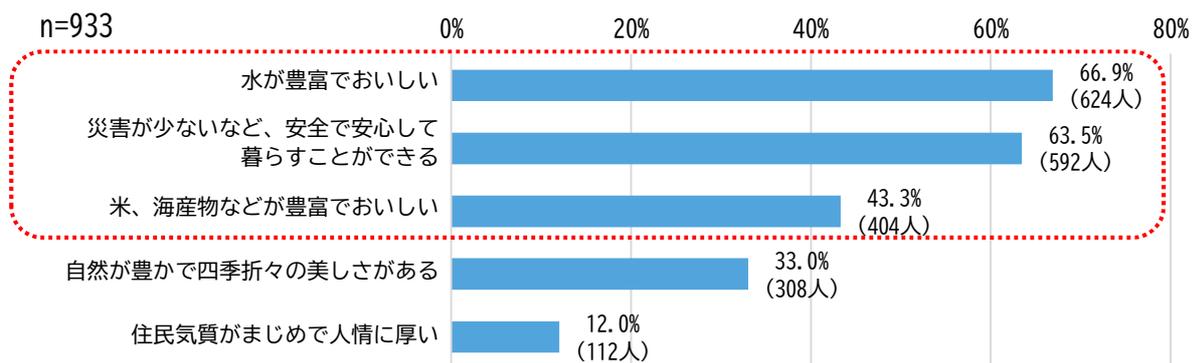
| 順位 | 項目 | 評点 |
|----|------------|------|
| 47 | 国際交流と外国人材 | 0.36 |
| 46 | 芸術・文化 | 0.64 |
| 45 | 生涯スポーツ | 0.73 |
| 44 | 伝統文化 | 0.79 |
| 43 | 生涯学習 | 0.90 |
| 42 | 郷土愛 | 0.90 |
| 41 | SDGs | 0.93 |
| 40 | 高度情報化と先端技術 | 0.97 |
| 39 | 魅力と多様な交流 | 1.02 |
| 38 | パートナーシップ | 1.04 |

4. 入善町の強み・弱み

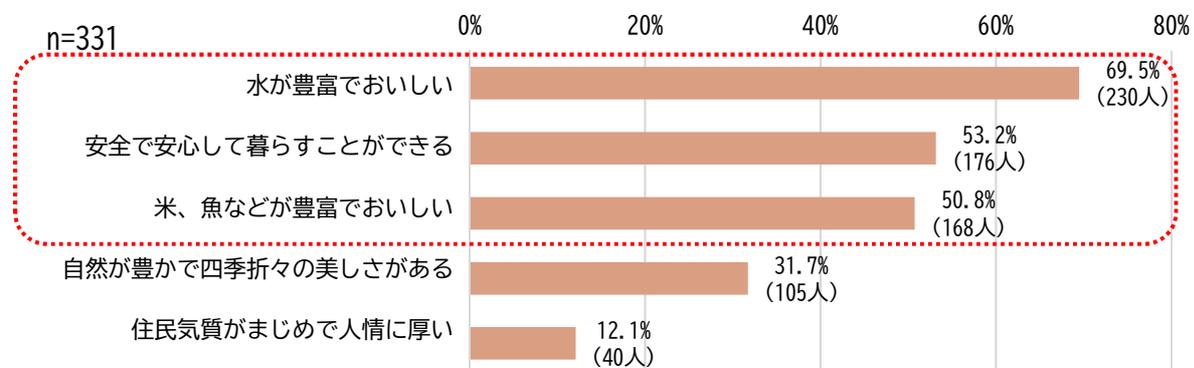
■入善町の良い点・強み

⇒「**豊富でおいしい水・米・海産物**」と「**安全で安心な暮らし**」が入善町の**良い点・魅力**

住民意識調査・若者意識調査ともに、良い点や魅力については、「水が豊富でおいしい」「安全で安心して暮らすことができる」「米、海産物などが豊富でおいしい」が上位に挙げられています。



【図表】住民意識調査 入善町で生活する中での良い点や魅力（上位項目）



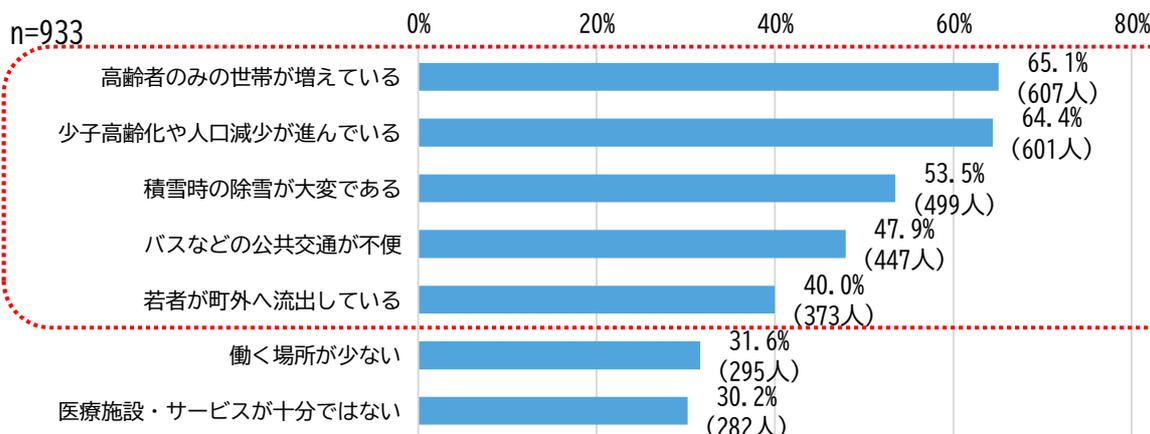
【図表】若者意識調査 入善町で生活する中での良い点や魅力（上位項目）

■入善町の問題点・弱み

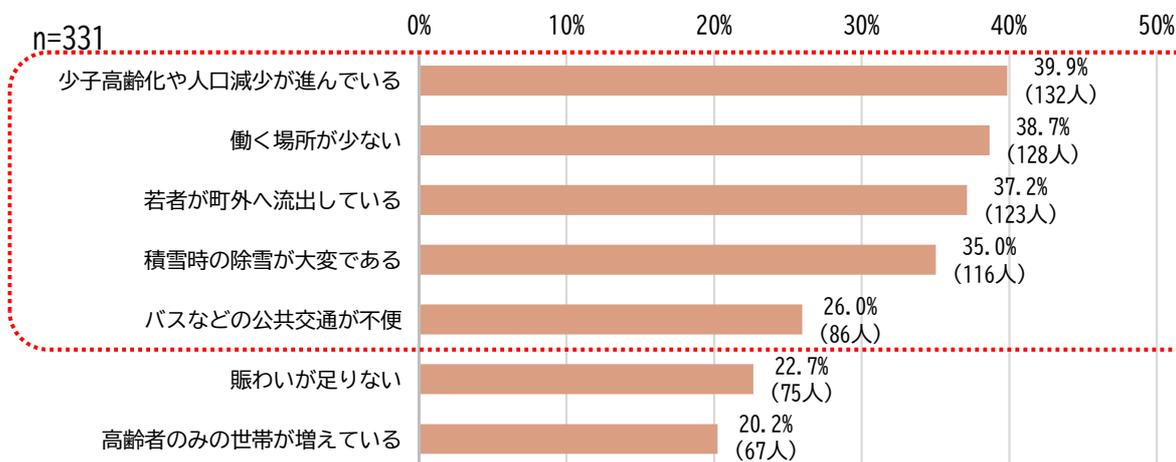
⇒「少子高齢化・人口減少」「公共交通の不便」を問題としている
 加えて、住民「高齢者世帯の増加」、若者「働く場所が少ない」

問題点について、住民意識調査では、「高齢者のみの世帯が増えている」「少子高齢化や人口減少が進んでいる」「積雪時の除雪が大変である」「バスなどの公共交通が不便」「若者が町外へ流出している」などが上位に挙げられています。

若者意識調査では、「少子高齢化や人口減少が進んでいる」「働く場所が少ない」「若者が町外へ流出している」「積雪時の除雪が大変である」「バスなどの公共交通が不便」などが上位に挙げられています。



【図表】住民意識調査 入善町で生活する中での問題点 (上位項目)



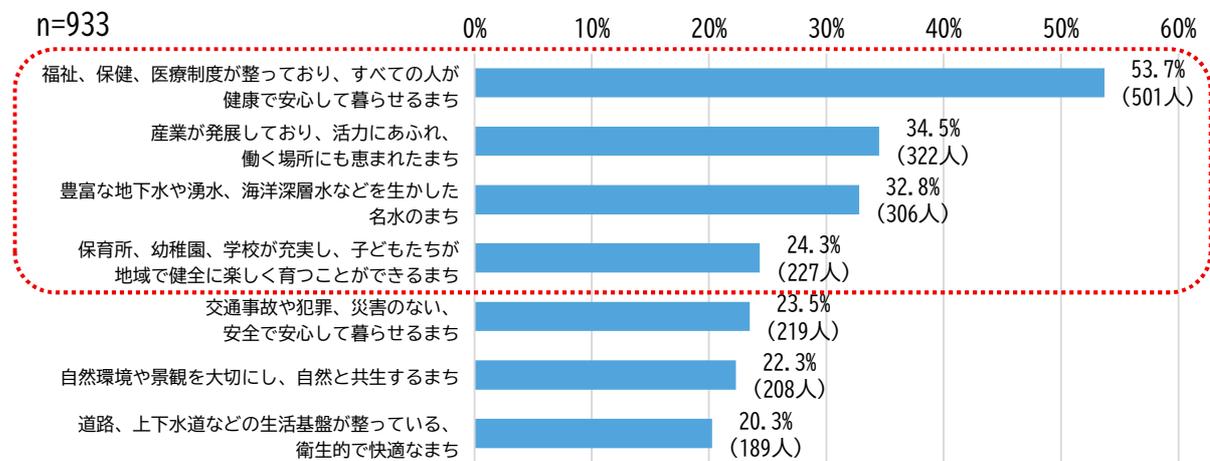
【図表】若者意識調査 入善町で生活する中での問題点 (上位項目)

5. 求められる将来像

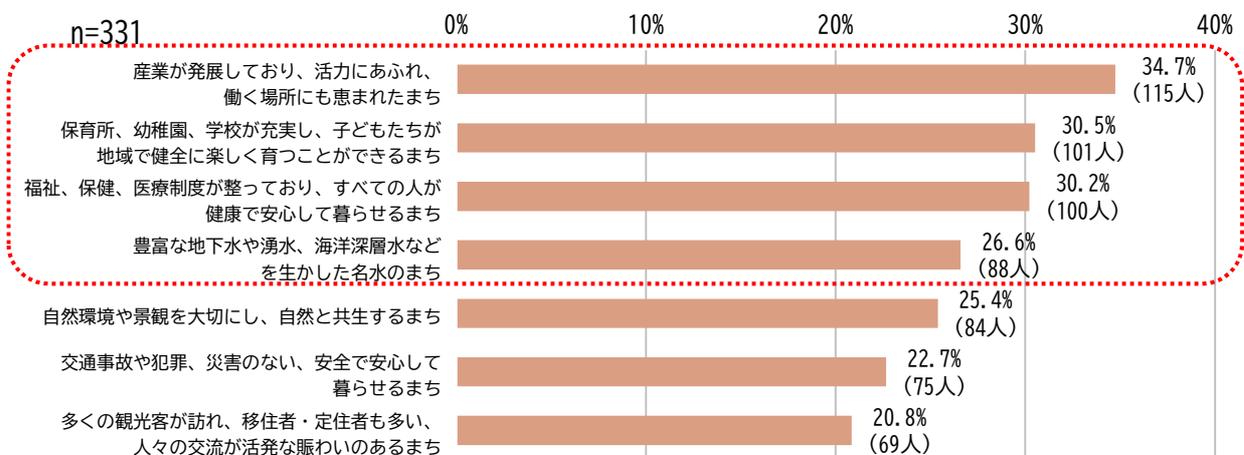
⇒町の将来像は「健康で安心して暮らせるまち」「名水のまち」「働く場所にも恵まれたまち」が上位

住民意識調査・若者意識調査ともに、入善町の将来像は、「福祉、保健、医療制度が整っており、健康で安心して暮らせるまち」「産業が発展しており、活力にあふれ、働く場所にも恵まれたまち」「豊富な地下水や湧水、海洋深層水などを生かした名水のまち」が上位に挙げられています。

そのほか、「交通事故や犯罪、災害のない、安全で安心して暮らせるまち」「自然環境や景観を大切にし、自然と共生するまち」「保育所、幼稚園等が充実し、子どもたちが地域で健全に楽しく育つまち」が上位に挙がっています。



【図表】 住民意識調査 入善町の将来像（上位項目）



【図表】 若者意識調査 入善町の将来像（上位項目）

【図表】 住民意識調査 入善町の将来像の前回結果との比較

| | R1結果 | R6結果 | (%) 今回－前回 |
|--|------|------|--------------|
| 福祉、保健、医療制度が整っており、すべての人が健康で安心して暮らせるまち | 52.1 | 53.7 | 1.6 |
| 産業が発展しており、活力にあふれ、働く場所にも恵まれたまち | 33.8 | 34.5 | 0.7 |
| 豊富な地下水や湧水、海洋深層水などを生かした名水のまち | 34.5 | 32.8 | -1.7 |
| 保育所、幼稚園、学校が充実し、子どもたちが地域で健全に楽しく育つことができるまち | 22.7 | 24.3 | 1.6 |
| 交通事故や犯罪、災害のない、安全で安心して暮らせるまち | 26.1 | 23.5 | -2.6 |
| 自然環境や景観を大切にし、自然と共生するまち | 23.6 | 22.3 | -1.3 |
| 道路、上下水道などの生活基盤が整っている、衛生的で快適なまち | 21.3 | 20.3 | -1.0 |
| 自然エネルギーの活用やリサイクル活動など、環境問題に積極的なクリーンなまち | 15.5 | 13.1 | -2.4 |
| 多くの観光客が訪れ、移住者・定住者も多い、人々の交流が活発な賑わいのあるまち | 10.0 | 12.2 | 2.2 |
| 高齢者から子どもたちまでが一緒に楽しむ、祭り・行事の多い、世代間交流の盛んなまち | 10.7 | 8.1 | -2.6 |
| 5GやIoT、AIなどの先進技術の活用による情報通信等の発達した便利なまち | 6.0 | 6.6 | 0.6 |
| SDGsの理念に基づいた持続可能な社会の実現に向けた取組が進められているまち | 2.3 | 5.5 | 3.2 |
| 文化、スポーツ活動などが盛んなまち | 4.1 | 3.1 | -1.0 |
| 歴史や文化、伝統を大切にするまち | 3.2 | 2.6 | -0.6 |
| NPO活動やボランティア活動、コミュニティ活動が盛んな町民主体のまち | 2.2 | 1.4 | -0.8 |
| その他 | 2.1 | 2.5 | 0.4 |
| 無回答 | 1.9 | 2.9 | 1.0 |

Ⅲ 入善町を取り巻く時代の潮流と影響

今日、本町を取り巻く社会、経済、環境等が大きく変化する中で、地域社会が抱える様々な課題に適切に対応し、解決を図っていくためには、これらの変化を「時代の潮流」として的確に把握する必要があります。

1. 人口減少と超少子高齢社会の加速

- ・我が国の人口は2008年以降減少が続いており、現在の総人口は12,337万人^{*1}となっています。年齢別に見ると14歳未満（年少人口）が約1割、15～64歳（生産年齢人口）が約6割にとどまり、65歳以上（高齢者人口）が約3割を占め、世界最高水準の超少子高齢化社会となっています。また人口の減少幅は拡大傾向にあり、いずれの年齢別でも減少傾向となっていますが、75歳以上（後期高齢者人口）は増加が続いています。
- ・国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口^{*2}によれば、2070年には我が国の総人口が9,000万人を下回り、高齢化率（65歳以上割合）は4割弱へ上昇すると予測されています。
- ・我が国で急速に進む人口減少と少子高齢化は、経済規模の縮小、労働力の不足、社会保障費の増大、地域社会の活力低下といった深刻な課題を引き起こすことが懸念されています。
- ・有識者らでつくる民間研究機関 人口戦略会議は、全国1,729自治体の4割強にあたる744自治体が、人口減少に歯止めがかからない恐れのある「消滅可能性自治体」に該当すると公表しています。

(*1 総務省「人口推計（令和7年7月確定値）」)

(*2 国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口（令和5年推計）の概要」)

2. グローバル化と多様性の更なる進展

- ・グローバル化は、国境を越えて経済、政治、社会、文化のつながりが深まる、現代社会を特徴づける不可逆的な社会潮流として捉えられます。情報通信技術や交通インフラの発達により、情報、モノ、人、資本が地球規模で瞬時に移動し、相互依存関係が強化されています。
- ・グローバル化には、生産性の向上、技術革新、多様な文化の受容、新しい価値観の創造などの肯定的側面がある一方で、経済格差の拡大、地域産業の衰退、社会的不安の増大、伝統文化の希薄化などの否定的側面の両方をもたらします。
- ・現在の我が国の外国人人口は約375万人^{*1}であり、総人口の約3%を占め増加傾向にあります。また訪日外客数（インバウンド）は3,687万人^{*2}であり、増加傾向にあります。

(*1 在留外国人数：総務省「人口推計（令和7年7月確定値）」)

(*2 訪日外客数：「訪日外国人旅行者統計（令和6年）」)

3. 異常気象、海洋汚染など地球規模での環境問題の深刻化

- ・地球温暖化は、熱波・猛暑・干ばつ・洪水・台風の激化などの異常気象の増加、海面上昇による沿岸部の浸水や砂浜消失、生態系の変化・生物種の絶滅、食料・水不足、健康被害（熱中症、感染症の拡大）など、多岐にわたる深刻な被害を引き起こしており、人間社会と自然環境の両方に連鎖的な影響を与えています。
- ・「気候変動に関する政府間パネル」（IPCC「Intergovernmental Panel on Climate Change」）の2023年3月の第6次評価報告書によれば、「1850～1900年を基準とする世界平均気温は、2011～2020年には1.1℃の温暖化に達した」、「温暖化を1.5℃未満に抑えるためには、世界のCO₂排出量を2030年には2010年比で45%削減し、2050年前後にネットゼロを目指すことが必要」と指摘されています。我が国においては、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロ（ゼロカーボン）にする目標を掲げています。
- ・また、気候変動以外に深刻化している環境問題として、海洋プラスチックごみ汚染や生物多様性の損失などが地球規模での大きな課題となっており、国際的な連携の下で取組みを進めていくことが重要となっています。

4. 高度情報技術の飛躍的な推進

- ・急速な発展を遂げている高度情報技術・デジタル領域での機能発揮は拡大し続けており、スマートフォン・SNS・クラウド等は、人々の生活や企業活動における重要・不可欠な社会基盤として浸透・拡大しています。
- ・また、AI（Artificial Intelligence（人工知能））の飛躍的な発展が進んでおり、大量のデータからパターンを学習し、自動運転、翻訳、音声認識、医療診断、画像生成など、様々な分野で活用が進んでおり、私たちの暮らしや社会に、業務効率化、生活の利便性向上、新たな産業の創出といった肯定的な変化をもたらす一方で、雇用の変化、倫理的な課題、AIへの過度な依存といった否定的な影響にも直面しています。

5. 社会経済情勢や雇用環境の変化

- ・我が国の経済情勢は、コロナ禍以降となる2024年以降、回復基調にあります。その後の世界的なエネルギー・原材料価格の高騰に伴い物価上昇が続いており、家計所得・雇用環境の実感は厳しい状況となっています。
- ・人口減少を背景として、2010年頃から働き手・働き方の多様化が進み、女性や高齢者等の就業が拡大しており、女性や高齢者（65～69歳）の就業率は5割強*に達しています。働き方についても、テレワークやフレックスの導入、ワークライフバランスを重視する傾向などの多様化が進んでいます。

(*女性及び高齢者の就業率：総務省「労働力調査（令和6年）」

6. 都市基盤の老朽化の進展

- ・我が国の社会インフラは高度経済成長期に集中的に整備されたため、現在それらの多くは建設後50年以上が経過しており、一斉に老朽化が進行している状況にあります。2030年代には道路橋や河川管理施設の約6割が建設後50年超となる見込みであり、重大事故リスクや維持管理費の増大が深刻な課題となっています。特に道路橋、トンネル、水道管などで老朽化が顕著で、予算不足や技術者不足も重なり、更新が遅れている状況が続いています。

7. 持続可能な開発目標（SDGs）への対応

- ・2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」（SDGs（Sustainable Development Goals））は、貧困・飢餓・気候変動・格差など地球規模の課題を解決し、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、全ての国連加盟国が取り組み2030年までに達成を目指す国際目標です。
- ・我が国では2016年に実施指針を策定（2023年に一部改訂）し、「政府・地方自治体、企業・民間セクター、市民社会組織（NGO・NPO）、学術・研究機関等の多様なセクターの主体的参画を促し、連携・協力しながら個別の取組みを全体につなげることで変革を加速し、全体としてSDGs達成への道筋を切り開いていく」としています。

IV 今後のまちづくりに向けた基本的な課題の整理

本町が目指す将来像「扇状地に夢と笑顔があふれるまち入善 ～子どもたちの未来のために～」の実現に向けて、本町の特徴を活かし、未来志向のまちづくりを進めていくために、第7次総合計画後期基本計画の各施策分野に共通する基本的なまちづくりの課題について整理します。

1. 持続可能性を高めるまちづくりの推進

今後の人口減少・高齢化の進行、インフラの老朽化、財政難など、多岐にわたる政策課題に的確に対応していくためには、持続可能性を高めるまちづくりの取り組みが一層重要になります。行財政運営における柔軟な計画運用やデジタル技術活用（DX）による効率化・利便性の向上、甚大化・頻発化する自然災害に対する平常時からの備えと地域社会での支え合い等の環境整備、地域コミュニティを支える担い手の育成や活性化等に取り組んでいくことが不可欠です。

2. 町民一人ひとりの参加と協働によるまちづくりの推進

安全・安心で活気ある地域づくりを進めていくためには、行政のみならず町民一人ひとりのまちづくりへの参加と協働が欠かせません。住民の属性やライフスタイルの多様化が進む中において、これまで以上に多様性（ダイバーシティ）や社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を高めていくことが重要となっています。全ての町民が地域社会の一員として尊重され、町民の誰もが能力を発揮できる環境づくりが重要となっています。

また、町民一人ひとりの主体的な取り組みを促し、地域での様々なつながりをつくりながら、住民、企業、NPO、行政等の多様な主体が連携・協働しやすい環境を整えていくことも重要です。

3. 地域資源の特性・強みを活かしたまちづくりの推進

本町に愛着と誇りを抱き、暮らし続けたい・移り住みたいと思われるよう、町の豊かで特徴のある地域資源の価値・魅力に更に磨きをかけ、地域産業の振興や賑わいづくり、町内外の交流など、様々なまちづくりの分野で活用を促進していくことが重要です。

また、豊富な地下水、扇状地の地形、北アルプス連峰の景観、海洋深層水、チューリップ畑やジャンボ西瓜など、それら地域資源を活かした地域内での経済・資源の循環を促進する取り組みも求められています。

【今後のまちづくりに向けた基本的な課題】

- (1)持続可能性を高めるまちづくりの推進
- (2)町民一人ひとりの参加と協働によるまちづくりの推進
- (3)地域資源の特性・強みを活かしたまちづくりの推進

【政策の柱】(10本の政策分野)

| | |
|-------------|-------------|
| (1)【結婚／子育て】 | (2)【教育】 |
| (3)【産業／雇用】 | (4)【交流／定住】 |
| (5)【生活基盤】 | (6)【防災／安全】 |
| (7)【福祉／医療】 | (8)【健康づくり】 |
| (9)【自然／資源】 | (10)【郷土／文化】 |

【計画を推進するための横断的な視点】(◇町民と行政が共に歩むまちづくり)

1. 町と地域のパートナーシップの構築
2. 町の未来を創造する主役づくり
3. みんなで支える社会の仕組みづくり
4. 持続可能な開発目標(SDGs)に共感したまちづくり
5. 超スマート社会の構築に向けた高度情報化と先端技術の有効活用
6. 多様な連携による効果的な行政運営
7. 計画的で健全な行財政運営の堅持